

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成25年6月27日 (2013.6.27)

【公表番号】特表2012-526832(P2012-526832A)

【公表日】平成24年11月1日 (2012.11.1)

【年通号数】公開・登録公報2012-045

【出願番号】特願2012-510964(P2012-510964)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/136 (2006.01)

A 6 1 K 31/404 (2006.01)

A 6 1 K 31/496 (2006.01)

A 6 1 K 31/506 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/24 (2006.01)

A 6 1 P 25/28 (2006.01)

A 6 1 P 25/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/04 (2006.01)

A 6 1 P 25/20 (2006.01)

A 6 1 P 25/18 (2006.01)

A 6 1 P 25/22 (2006.01)

A 6 1 P 25/30 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 31/136

A 6 1 K 31/404

A 6 1 K 31/496

A 6 1 K 31/506

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 43/00 1 1 1

A 6 1 P 43/00 1 2 1

A 6 1 P 25/24

A 6 1 P 25/28

A 6 1 P 25/00

A 6 1 P 25/04

A 6 1 P 25/20

A 6 1 P 25/18

A 6 1 P 25/22

A 6 1 P 25/30

【手続補正書】

【提出日】平成25年5月8日 (2013.5.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

神経疾患を治療、予防、又は管理するための医薬組成物の製造におけるトランスノルセ

ルトラリン、又はその医薬として許容し得る塩もしくは溶媒和物の使用であって、該医薬組成物が、セロトニン受容体1A作動剤もしくは拮抗剤、又はその医薬として許容し得る塩、溶媒和物もしくは立体異性体と組み合わせて使用するためのものである、前記使用。

【請求項 2】

前記セロトニン受容体1A拮抗剤が、ピンドロール、WAY-100635、レコゾタン、又はAV-965である、請求項 1 記載の使用。

【請求項 3】

前記セロトニン受容体1A拮抗剤が、トランスノルセルトラリンの投与の前に投与される、請求項 1 記載の使用。

【請求項 4】

前記神経疾患が、うつ病、認知障害、線維筋痛症、疼痛、睡眠関連疾患、慢性疲労症候群、注意欠陥障害(ADD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)、レストレスレッグ症候群、統合失調症、不安、強迫性障害、心的外傷後ストレス障害、季節性情動障害(SAD)、月経前不機嫌、閉経後の血管運動症状、神経変性疾患、躁状態、気分変調性障害、気分循環性障害、肥満、又は薬物の濫用もしくは依存症である、請求項 1 記載の使用。

【請求項 5】

前記トランスノルセルトラリンが、(1R,4S)-トランスノルセルトラリン、又は(1S,4R)-トランスノルセルトラリンである、請求項 1 記載の使用。

【請求項 6】

前記セロトニン受容体1A作動剤が、ブスピロン、エルトラジン、又はタンドスピロンである、請求項 5 記載の使用。

【請求項 7】

1)トランスノルセルトラリン、又はその医薬として許容し得る塩もしくは溶媒和物、及び、

2)選択的セロトニン受容体1A作動剤もしくは拮抗剤、又はその医薬として許容し得る塩、溶媒和物もしくは立体異性体、を含む、医薬組成物。

【請求項 8】

前記トランスノルセルトラリンが、(1R,4S)-トランスノルセルトラリン、又は(1S,4R)-トランスノルセルトラリンである、請求項 7 記載の医薬組成物。

【請求項 9】

前記セロトニン受容体1A拮抗剤が、ピンドロール、レコゾタン、AV-965、又はWAY-100635である、請求項 7 記載の医薬組成物。

【請求項 10】

前記セロトニン受容体1A作動剤が、タンドスピロン、ブスピロン、又はエルトラジンである、請求項 7 記載の医薬組成物。

【請求項 11】

追加の活性薬剤をさらに含む、請求項 7 記載の医薬組成物。